



平成 25 年 9 月 20 日 第 3 巻(第 11 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害支援チーム TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

***** TOPICS *****

①災害支援チーム主催で講演会を開催いたします。

日時:10月19日(土) 10:00~16:00。みなさんのご参加をお待ちいたしております。

※詳細についてはホームページでご確認ください

②「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご
覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

***** 目次 *****

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子
3. RIC メンバーとの勉強会の様子を御紹介
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 事務所より

*** 1. 協力員として参加して ***

活動期間:2013年 8月19日~8月21日
園田淳司(大分県 医療法人大分記念病院)

感想:

私は今回始めて現地活動への参加をさせて頂きました。きっかけは、現在大分県協会の災害ソーシャルワーク研究班の一員として取り組む中で資料やメディアの情報だけでは分からないことが多く被災地の生活状況も見えてきませんでした。その中で実際に現地ではどのような活動が展開されて支援が行われているのか、自分自身が支援者の一人として携わり実感したいと思い参加しました。今回8月19日~8月21日という短い期間でしたが、多くの仮設住宅、被災地域を訪問させてもらい、今尚仮設住宅で生活する方々が多くいること、震災当時の壊れた建物が今尚存在することなど、2年以上経過した今でも震災による影響、生活再建を必要としている方が多くいることは大分では感じる事が出来ない体験だったと思います。また、震災の恐怖さも現地にいることで痛烈に感じました。同時に実際に被災した方、なくなった方には計り知れない恐怖であったのだろうと実感させられました。この貴重な体験は遠く離れた大分においても風化させることなく、また教訓として研究及びソーシャルワーカーとして取り組んでいきたいと思ひます。そして、また石巻の地で支援活動に参加できればと思ひます。

活動を検討している皆さんへ一言:

普段仕事では感じる事が出来ないことがたくさんあります。
人間として成長できるような気がしました。
大分に負けなくらい食べ物もおいしいですよ!

活動期間:2013年 8月19日~8月21日
谷山香菜恵(大分県 独立行政法人国立病院機構大分医療センター)

感想:

災害支援以前に、ソーシャルワークが何かもまだ良く分かっていないような社会人・MSW2年目の私に何が出来るのか、活動の前はそればかりが頭にありました。しかし、石巻で活動される現地担当者の方々、関係機構・職種の方々、そして石巻市民の皆さん方と出会い、“何か出来る”と信じることも大切なのだと感じました。私には何もできないと無力感を感じていた震災発生当時、私は大学生でした。もしかしたら無力感さえも感じていなかったのかもしれませんが、しかし、そんな私が実際に石巻を訪れ、さまざまな人々と触れ合うことで、自分にも“何か出来る”と信じようとしています。自分に何が出来るのか、不安に思うのなら、まず現地を訪れ、知る事・会うことも大切だと感じました。支援活動に参加し、耳で聴いて目で観て、舌で味わって心で感じて、色々なことを教わりました。これからも教わり続けるのだと思ひます。参加させて頂き、本当にありがとうございました。

活動を検討している皆さんへ一言:

私は自分に何が出来るのか、石巻に着くまでずっと不安に感じていました。しかし、3日間

の活動を終えた今、また行きたいと心から思うことができました。やはり、まずは現地を知ることが大切なのだと思います。

活動期間:2013年 8月19日~8月23日
今尾 顕太郎(大分県 別府医療センター)

感想:

今回は一昨年の7月の遊楽館、昨年の11月のRCIと続いて3回目の参加となりました。参加する度に取り組む問題は異なり、未だ多くの課題が被災地には残っていることを痛感します。報道は原発問題にほぼ移行しており、生活者が直面する本当の問題の切実さは全国に伝えられにくくなった感があります。

今回50カ所近い仮設住宅を回って感じましたが、正常とは言いがたい生活を未だ強いられているということです。特に印象的だったのは、高級住宅街の中に設置された仮設住宅です。高級住宅街で遊ぶ子供たちと仮設住宅で遊ぶ子供たちは、数メートルしか離れていないにもかかわらず、別々に遊んでいました。たまたまかもしれませんが、その背景にどれだけの差異があるのだろうか。そしてそれは、双方にどのように影響を与え、傷を負わせるのか。

被災地には、様々な問題が山積しています。その中に、我々ソーシャルワーカーが、子供たちを守り、その生育と将来が安心したもののできるよう力を尽くすという役割もあるような気がします。

活動を検討している皆さんへ一言:

これからも、被災地には力が必要です。やらなければならないことが、まだまだあります。ここからが、ソーシャルワーカーの腕の見せ所です。

活動期間:2013年 9月14日~9月15日
鶴田光子(神奈川 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院)

感想:

協会関係の石巻は3度目。11年12月以来です。たまに参加するので、そのたびに宿舎も活動内容も変化していて時の流れを感じます。

今回の休日は決められた活動はなく、現地活動員の方がいろいろプランをたててくださいました。初日には全校児童の大半が犠牲となった大川小学校の観音像開眼供養に遠くから参加させていただき、その傷の深さに言葉もありませんでした。翌日にはみなし仮設の独居の高齢男性の訪問に同行、また現地活動員の方からひきこもりの子を持つ親の会、中高年の男性の会などの取り組みを伺い、いずれも震災ゆえの課題、それ以前からあったものが震災によってあぶりだされるなど、医療機関で出会う方々と通じるものがあります。11年夏遊楽館で関わった方のその後を伺うことが出来たのは感動でした。お話を伺って、こうした活動はまさにソーシャルワークそのもので、その軸となっている現地活動員の方に敬意を表します。今回ミクロの関わりが少なかった分、メゾやマクロ~「風土」について考えました。現地活動員の方に説明していただきながら、山間部から海辺まで回りましたが、息を呑むほど美しいリアス式海岸や山々に石巻の方々の育てられた風土を肌で感じ、一方ですべてが流され、草に覆われた街や南三陸の防災庁舎の無残な姿「こんなところに」と思うほど山間部にある仮設住宅などに、石巻の

方々の現在の痛みを思いました。こうした背景を受け止め、尊重し、その力を生かせるように下地作りをすることが「よそもの」の役割なのかと考えました。美しい風土に培われた石巻の方の力がこれからますます発揮できますように。「あなた方の活動は私たちの誇りです」という防災庁舎の献花台のことばが忘れられません。

活動を検討している皆さんへ一言：

震災前の石巻、震災直後の石巻についてできるだけ学んで、「今」の石巻に出会ってください。現在医療機関で働いていると業務も限局され、視野が狭くなりがちです。「ソーシャルワーク」の原点を問い直し、日常業務に生かすよい機会だと思います。

*** 2. 石巻での活動の様子 ***

*** 9/10 久保木 美由紀（現地担当）

中高年男性向けイベントの打ち合わせ(RCIと)：

9月27日「釣り大会」。場所、時間の確定、緊急時の避難経路、内容、準備物、役割分担決定。予定していた時間の変更あり関係機関へ連絡、調整。危機管理の観点から、参加者への保険を検討。RCIや協会に確認後加入予定とする。送迎に関してもドライバーに責任すべて行かないように同意書をとる事となる。書式は協会が作成する。

その他：

開成包括ケアセンターの「地域ケアシステムについて」の取り組みについて話しを伺う。“自助”の部分をもどのように構築していくかが仮設住宅という環境、被災したことによるストレスを抱えた方々に対して支援を検討した。その方々のストレンクスに着目した支援が地域包括ケアシステムを構築していくうえで重要であると感じた。

*** 9/11 久保木 美由紀（現地担当）

中高年男性向けイベント：

9月27日に行うイベント中高年男性を対象にした「男の遊ぼう会 釣り大会」の釣り場の下見。丘釣りであるが、海の近くでの開催のため、地震があった際の避難経路も確認を行う。その帰りに備品(釣竿)の買い出しも行う。

引きこもり子を持つ家族グループ：

参加者2名。初めての方と2回目の方。2回目の方は初回参加された方で、ずっと行きたかったが足がない事等を理由に行けなかったと。高齢の方の定期送迎を送迎サービス事業者に依頼することを検討する。会場は、会議室から講堂に変更できるか担当部署に確認する。

*** 9/12 久保木 美由紀 (現地担当)

RCIとイベントについて打合せ:

イベントの目的を再確認し、今年度末までの目標を設定。イベント経費についても検討。北上エリア主任へご挨拶。

第5回仮設支援連絡会:

ボランティア、NPO、地域団体等 15 団体が集まり、活動状況報告とワークショップを行った。ワークショップは「地元の担い手との活動相関を見直す」と題され、所属機関が地域とどのようにつながっているかのエコマップを個人ワークで作成し、つながりの強さ、弱さを確認した。次にグループに分かれ、グループから1つの事例を選び、弱い繋がりを強化するためにはどのような策があるかの案を出し、発表した。協働して何かを行う際、他団体が何を得意とするか、どの機関との繋がりが強いかをしておくことは重要である。今回はそれを知ることができる機会となった。

*** 9/13 久保木 美由紀 (現地担当)

社協 CSC と打合せ:

9月26日のピーチサロンの打ち合わせを行う。桃生地区の住民に向け、社会資源の紹介として医療ソーシャルワーカーについて説明を行う予定。

TEDIC へ訪問:

こどもの学習支援を行っている団体。対象は小学生から高校生。学生ボランティアをチューターとして採用。開催場所は石巻市内7カ所。時間は場所によって異なるが 15 時～20 時半。学童的な役割を担っている。紹介は口コミが主。からころステーション、イシノマキ NOTE 等の団体と連携している。

NPO 創生センター訪問:

9月20日に万華鏡づくりのワークショップを開催される。利用者が参加希望の意向があるためチラシをいただいた。

*** 9/14 久保木 美由紀 (現地担当)

石巻市内の各地を訪れ、石巻が育んできたこの土地が震災により失ったものがいかに大きいものであったかを知らされ、人々の痛みを感じた。そのような環境の中で一歩、一歩進んでおられる住民の方々の力を感じ、その力の回復の後押しをする支援をしていくことを協力員と確認した。

*** 9/17 久保木 美由紀 (現地担当)

復興公営住宅の申請について SW も同行し市役所へ相談に行く日程を調整する。親の会参加後のフォローと息子さんとの面談予約。

桃生団地現場支援者ネットワーク会議:

9月26日桃生中津山仮設団地集会所にてピーチサロン実施予定。そこで、『MSWとは』というテーマについて話しをする予定。その打合せも兼ねて参加する。支援者たちより、住民の方に分かりやすい、身近な表現を使用してほしいと話がある。

*** 9/18 久保木 美由紀 (現地担当)

ネットワーキング:

仮設住宅(南境団地、開成団地、大森団地)集会所を訪問し、イベント等の情報収集、住民の方々とコミュニケーションを図る。

*** 3.RICメンバーとの勉強会の様子を御紹介 ***

第1回 6月25日(火) 信頼を築き、相手をもっと知りましょう

- * ニーズの把握
- * 相手を「理解」することって?
- * よりよく理解するための「距離」: ロールプレイで振り返る
- * ジェノグラム・エコマップなどのツールの活用
- * プログラムの修正について、話し合い

担当: 笹岡真弓(文京学院大学)

第2回 7月24日(水) より良いチームを作るために

- * チームメンバーをどのように理解し、チームを作り上げていきますか?
- * チームにおける葛藤の取り扱い方
- * チームメンバーとしての役割
- * 振り返り

担当: 西田知佳子(元聖路加国際病院)

第3回 8月6日(火) グループワークのスキルをアップするために

- * グループの特徴を知る方法とは?
- * グループリーダー育成の方法について、考える
- * グループが育った時の、お別れの方法について考える
- * 振り返り

担当: 佐原まち子(国際医療福祉大学)

第4回 8月27日(火) アサーティブに気持ちを伝える

- * 「伝えられること」と「伝えること」を区別する。
- * 伝えない選択もあること
- * 大切なことは「伝えられる」と感じられることと理解する。
- * 「怒り」の表現を考える: 「沈黙」の意味を考える
- * 振り返り

担当:梅崎 薫(埼玉県立大学)

第5回 9月30日(月) あらためて「家族」を理解する

- *「家族」の定義とは?
- *「家族」にはいろいろなタイプがあります
- *「家族」と関わる時のコミュニケーション技術
- *振り返り

担当:取手涼子(医療法人社団輝生会)

第6回 10月18日(金) グループの中で、個人のニーズを拾う

- *ソシオグラム(団体や小集団についてのアセスメントツール)
- *小集団において、メンバー間の関係を簡潔に記述する図式、アセスメントする方法を紹介し、集団の見方について考える
- *これをもとに、集団・組織の課題が明らかになり、集団・組織の変化を捉えることができる。

担当:山田美代子(西片医療福祉研究会)

第7回 11月26日(火)

地域ニーズを引き出し、自助共助のつながりを生み出す方法

- *外部からの支援者が引き上げていく中で、残されたニーズを検討する
- *地域アセスメントの方法を考える:何をアウトプットにするのか
- *効果測定をどのように考えるのか
- *目に見えないニーズを掘り起こした後のつながりについて
- *連携とネットワーク構築
- *振り返り

*** 4. 災害支援チームからのお知らせ ***

【1.協力員募集】

*** 現 地

- 1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

*** 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、
ご協力をお願い致します。

【2. 災害支援チーム会議の開催について】

5. 次回会議予定

●日程 9月29日(日)13:00~15:00 於協会会議室

【3. 災害支援チーム主催の講演会】

日 程:2013年10月19日(土) 10:00 ~ 16:00

会 場: TKP 信濃町ビジネスセンター ホール2

受講料: 会員・賛助会員(個人) 4,000円

賛助会員(団体)・非会員 6,000円

学 生 2,000円

★学生向け受講料を追加しております。ご確認ください。

★詳細はホームページに掲載いたします。⑦アクセス手順をご覧ください。
みなさまの参加をお待ち致しております。

【4. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の
活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、
石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の
記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送
料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【5.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL ***

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【6.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL ***

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

【7.講演会受講申込フォームへのアクセス手順】

- ①日本医療社会福祉協会のホームページを起動
- ②研修情報 タブルクリック
- ③研修案内情報 クリック → 研修案内情報を表示
- ④災害支援チーム主催 講演会 クリック → 開催案内フォーム表示
- ⑤開催案内フォーム上で
- ⑥受講申込フォーム クリック → 申込フォーム表示
- ⑦申込項目入力 確認押下
- ⑧関連ファイル:2013/08/19 クリック → PDF ファイル表示 ファイルダウンロード可能

*** 5. 事務所より ***

*** 9/18 金子 小夜子 (災害支援チーム事務所)

今月初めの被害の復旧もままならぬうちに、15日～17日にわたり関西地方から北海道全域まで大型台風の襲来を受けました。

日本の2/3と思えるほどの都府県で多大な被害を受けました。個人の被害状況と居住地の被害状況との関連で支援対象から外れてしまう方々に臨時の公的支援法でも制定して対応して欲しいと思います。

<編集後記>

嵐山をはじめ、台風 18 号の被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。私自身はアパートの3階で生活している為、大きな被害はありませんでしたが、駐車場をはじめ半径50M 位が膝下位まで浸水し、冷や冷やした一夜を過ごしました。自然の怖さを想起いたします。

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 9 月 20 日 第 3 卷 11 号
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会

<<楽天イーグルスの優勝に沸く仙台市内>>

